

# 自由南アフリカの声

1998年8月

No.18

Voice of Free South Africa 発行 アジア・アフリカと共に歩む会  
Published by Together with Africa and Asia Association(TAAA)

## 1998年8月の報告と予定

- 6月ケープタウンへ5094冊送る
- 7月ELETへ2624冊送る
- 7~8月アメリカンスクールから6トンの読み物教材をもらう
- ハウテン州への車は船を待機中

### 目次

作業に参加している人の紹介 .....	2
お知らせ .....	7
平林薫さんの南アだより .....	8



# TAAAの作業に参加している

## 人たちの紹介

日本国内で中古の本や移動図書館車を集め、梱包作業をしたり、所定の手続きをしたりして、送り出す。こうした仕事に携わっている人たちの一部を今回は紹介したいと思います。お互いに紹介し合う形を取りました。今、20数人の人が手伝いたいと言っていますが、実際、月に1回位の日曜日に参加できるのは10人以下のことが多いのです。皆仕事を持った忙しい人たちです。

TAAAはいつでも参加を歓迎しています。これを読まれて私もと思われた方はどうぞご連絡下さい。

### 浅見克則さん

野田代表とこの会を創設したのが、浅見さんです。いわば野田さんと浅見さんはこの会の両輪です。この会の創設以前に浅見さんは野田さんが支援していた団体の古着プロジェクトに協力しました。「もくもくと無報酬で奉仕する主婦や学生を見て、ある種の感動にとらわれた。」と、当時を回想します。

南アについては、「知識も関心も殆どありませんでした。野田さんがたまたま関わっていたのであって、それ以上でもそれ以下でもありませんでした。しかし内情が判り、交流が高まるにつれ、特別な存在に成長しつつあります。いわば見合い恋愛のようなものでしょうか。」

野田代表については、「思いついたことを次々と実行していく力はこの会の原動力となっている。」とっていますが、移動図書館車を南アに送ることにしたとき、自動車に関する専門的な知識を持つ浅見さんがいなければ、このプロジェクトは一步も進みませんでした。

浅見さんにとってボランティアとは、「無償で働けば働くほど、大きな預金が、誰も知らない私の口座に振込まれるような気がする精神的な糧を得るため、また、人生のバランスを取るため、私自身にとって必要なもの。」だそうです。(小宮山明子記)

### 井出利栄さん

井出さんはご主人の設計事務所も手伝いながら、趣味のフラメンコダンス、英会話を続けTAAAには5年前から、新聞を見て参加されている。ご主人のお父さまが長く入院されているのでそのお世話も忙しい。

家族思いの井出さんはそうした生活を大事にする形で会の活動を助けて下さっている。井出さんの仕事は、TAAAの会報ができると、郵便局での発送までのすべての作業を自宅ですべてこなし下さることだ。だから、「自宅でウイークデイならできます」と言って、持ち帰って下さる。日曜の大勢集まる作業には出られたことがほとんどないので、皆顔を知らない。

1昨年ウイークデイにアメリカンスクールに大量の本を引取に行った際は、都合のつく人が井出さんと私2人だけだった。女2人でがむしゃらに働いて学校の庭で70箱の梱包を終え、その日の内に輸送業者に出したのだった。「忙しい方がいい。動くのは大好き」と言われる井出さんの見えない所での働きは大きい。ちなみに井出さんはフラメンコの似合うすうすりとした美人です。

(野田千香子記)

## 北爪健一さん

埼玉県立熊谷図書館移動奉仕課に勤務されている。移動図書館のお仕事をして17年。プロである。日本図書館協会での活動も含めその知識、情報網、経験などは、TAAAにとって貴重なものになっている。普通の人が無理なく参加できるのが我々の会だが、この方は「水を得た魚」のように活動されている。

昨年11月の南ア訪問では移動図書館車と現地の受け入れ状況を視察してきた。図書館にかける情熱は国境を越えるものらしく、同じライブラリアン同士の意見交換の様子は熱っぽく、また楽しそうであり、つよく私の印象に残っている。図書館の3要素は職員、図書、建物だそう。TAAAでは本と移動図書館（建物）を送っているが、やっぱり人（職員）が大事と見ておられる。現地のNGOとの連絡は今後も重要なようである。

いつも柔和な笑顔であたたかく、まわりに配慮されている。やさしい方である。日頃の活動の中では本を大切にされている。物事にきちんときちんと対処される堅実な方だ。そしてヘビースモーカーでもある。お体を大切に…。

(下谷房道記)

## 久我祐子さん

久我さんは、マンデラ政権になる前から南アにエールを送り続けていました。「新制南アに関わっていくには『開発』に協力していくことが必要だと思った。特に、未来を背負っていく子供たちに何かがしたかった。」と、TAAAに関わるきっかけを話しています。

英語と日本語の翻訳には久我さんの英語力が欠かせません。会の要です。一見柔和なイメージですが、内なる闘志を秘めています。そんな久我さんですが「小学校の時、学校がきらいだった」そうです。「会の活動で南アに行ったとき、貧しいけれどいきいきしている小学生を見て改めて、学校の良さを知った。物質的には豊かな日本の学校が、かかえている問題点も考えさせられた。人種、生活、習慣の多様性を認め、共存の道を模索する。異種のを排除しないという取り組み。南アが追い求めている虹は、きっと日本にも架けられるはず。」

「多様性という点では、イギリス人、パキスタン人、バングラディッシュ人、韓国人と、この会には外国人も携わってくれました。思いは皆同じと、つくづく思いました。」

(小宮山明子記)



本を分類し、パッキングする 98.6

工藤睦子さん

新座市在住。23歳

・TAAAの活動は何でお知りになりましたか？

工藤：朝日weeklyで英語の教科書を集めているという記事を見て教科書を送りました。

・活動に参加するようになったのは？

工藤：図書のパッケージ作業に加わるようになった動機には、以前からこの活動をしている人たちの顔や考え方を知りたいと思ったことがあります。きっかけとしては作業に通える距離に引っ越してきたことです。

・活動を通してなにを感じていますか？

工藤：いろいろな年代の人、いろいろな職業の人に会えることが、楽しいですね。

・どんなご希望をお持ちか聞かせて下さい。

工藤：TAAAと現地NGOというチャンネルを通して、南アフリカの様子をもっとわかるしくみをつくれるといいですね。

(古我貞夫記)

古我貞夫さん

Q：TAAAに参加するようになったきっかけは

A：新聞でTAAAに移動図書館車を送る旨の記事を読み、自分は図書館司書で移動図書館車運行の経験があるので役に立てるのではと思いました。

Q：古我さんは情熱的な図書館員でいらっしゃいますけど、古我さんにとって図書館とはどのような存在ですか。

A：社会の様々なしがらみから個人を開放させてくれる「一人の世界」。個人が己を高める場所。南アフリカでも、教育や教養を高めるだけでなく、人種差別その他の社会問題から個人を開放させてくれる場所だと思うので存在意義は大きい。

Q：南アのどこに惹かれますか。

A：民族の多様性が面白いが、部族社会の内側は日本社会と似ているのでは。西洋人には理解できないけれど東洋人なら分かる部分が南アには多々あると思うので、日本人が南ア

を援助するのは大切なことだと思う。逆に日本が南アの多様性や開発途上のエネルギーに学ぶところがあるのでは。

Q：最後に一言、今後どのような人間になりたいか。

A：図書館員には生真面目な人が多い。そんな中で、自分は一ひねりある人間になりたい。試行錯誤をたくさんして失敗を大切にしていきたい。

(久我祐子記)

小宮山明子さん

小宮山さんはTAAAに新聞を見て参加してからすでに5年になります。浦和に住んでいた頃は日曜日の梱包作業にもよく参加していましたが、今は鶴見に越され、休みも日曜日ではなくなってしまったので、作業には参加できなくなりました。

日本語学校の教員をされていたこともある国際感覚の豊かな意志の強い能力ある女性です。今、小宮山さんにしてもらっている重要な仕事は本や資金を援助して下さっている全国からの支援者のリスト管理です。リストに新しい支援者を加え、住所変更、ニュースレターの要、不要など…常に新たなデータを入れ、会報送付時にはラベルを打ち出してくれます。顔を合わせる事が少なくとも同じペースで活動への協力を続けてくれている小宮山さんの姿勢はすばらしいですね。

(野田千香子記)



下谷房道さん

朝日新聞で知り、第1回の講演会で入会を決意した氏は南北問題に関心を寄せる高等学校の社会科の先生。「家から近く、長続きしそだった」と振り返る言葉通り今では最古参の一人。現地には2度にわたり訪れ、アパルトヘイトを戦い抜いてきた人々の力強さと優しさに感銘を新にした。また、カウンターパートナー、MEIの代表Bentley氏の積年の移動図書館車構想が中古車ながら、当会の協力によって着々と実現していく課程をつぶさに見て、ある種の感動に捕われている。柔らかな文学青年然とした風貌、飄々とした人柄からは想像しにくいスポーツ派。学校ではいくつもの運動部の顧問、水泳、スキー、マラソンと何でもこなす。因みに独身。

(浅見克則記)

田中敦子さん

浦和市在住

・お仕事は何を？

田中：学校司書（小学校）をしています。

・TAAAに参加するきっかけは？

田中：会員の方に誘われて、活動報告会に参加したのが最初です。入ったばかりでまだ活動実績がないんですけど、みなさん一生懸命で、尊敬の念を覚えました。一緒に活動できてうれしく思います。

・実際に活動してみているいかがですか？

田中：「本業」も図書館なんですけど、日常の仕事とは違った充足感がありますね。ボランティア活動なんて初めてなものですから新鮮ですね。

・TAAAに対してご希望・ご期待などありましたら伺います。

田中：私にできることを楽しくお手伝いしたいと思います。南アや日本の文化の向上に少しでも役に立てれば本当にいいなと。

(古我貞夫記)

千葉愁子さん

今年早稲田大学を休学しアメリカのNGOのボランティアとして南アフリカに渡るようになった千葉さんは佐保美恵子さんが書いた

「マリーの選択」を読んだのがきっかけで南アにのめりこんでしまった人です。元々心理学に興味があった千葉さんは、本の中でアパルトヘイトが心理的に人間にダメージを与えるところが印象的で、南アでのボランティア活動では、カウンセリングを含めた職業訓練に携わるのが希望。ひょうひょうと生きているように見える彼女は、南アへ行くと性格が変わるのだそうです。本人曰く、日本にいる時は心配性（そうは見えないのですが）で取り越し苦勞が多いのだけれど、南アフリカでは開放的で楽天的になるとか。南アの魅力は人が強くて暖かいこと。TAAAは、来ている人の雰囲気が好きで取っ掛かりやすいこと。

(久我祐子記)



作業を終えて話し合いをする 98.6  
南アの留学生も参加する(手前左)

野田千香子さん

1 野田さんは長年塾で子供達を教えていらっしゃるんですが、日本の子供達に南アの子供達（特に貧しい居住区）から学んでもらいたい点がありますか。

野：南アのみならず世界中の苦境にある子供達の姿を知り、「なぜなのだ？」「どうしたらいいのだ？」と疑問をたくさんもってもらいたい。

2 会の活動で南アに何回か訪問されていますが、南アの一番好きなのところと直してもらいたい点は何ですか？

野：好きなのところは、まぶしいくらいの明るさを持っていること。直してもらいたい点は、相互扶助の精神がある反面、逆に頼りすぎたり情実などの不正に通じやすいこと。

3 日本社会の好きなのところと嫌いなところ？

野：狭い国の中で平穏を愛するのは良いけれど、真実を蔽い隠してつらい現実や歴史を見ないところはずい。

4 今まで何回も会の活動として南アに行かれています。将来観光者として行くチャンスがある場合、どのような場所に行きたくて楽しみたいですか。

野：自然の美しい所に行きたいし、アフリカの音楽もたくさん聴きたいし、ダンスも見たいですね。でも一番おいしい食べ物はまだ後にとっておきたい気がします。

5 野田さんは主婦であり母であり塾経営者でありTAAAの代表であり、とごくまれなるエネルギーの持ち主ですが、野田さんの人生におけるエネルギーの源は？TAAAに注いでいらっしゃるエネルギーの源は？

野：私はあまりエネルギーが豊富な方ではないのでどうしてもやりたいことだけやって、日常生活では掃除、炊事も最低のことだけしてあとはボンヤリしていることも多いのです。南アは、長年の民族間の憎しみを乗り越えて国家建設を目指している。この歴史上画期的なプロセスをできる限り支援していきたい。

(久我祐子記)

増山久一郎さん

増山さんは高校の英語教諭をしています。

「私の職業とは関係なくひとつのボランティア活動に参加しているという認識です。」とっていますが、南アの方を招いての講演会ではその英語の実力を、通訳として存分に発揮してくれます。

10年前に増山さんの学校に、この会から英語の教科書集めの依頼があり、それ以後個人的に関わっていますが、どんな発見があったのでしょうか。

「発展途上国では、学校を取り巻く環境が悪く、教育に必要な資財、教材が不足していることがわかりました。」

超多忙の増山さんですが、時間の許す範囲で作業などに参加しています。「送る本の箱詰めが終わったときの幸福感」が何ともいえないそうです。

「南アであれ、どの国であれ、独特な文化や民族の相違は尊重しつつ、国境というものは意識したくない。」というのが増山さんのスタンスです。

野田代表はどんな人？

「正義の味方アンパン・ウーマン」

(小宮山明子記)

松浦孝行さん

NHK職員

Q：参加のきっかけは？

A：ボランティアの本で知りました。この1年半に、TAAAの活動に参加したのは10回位です。ボランティアはやりたと思っていましたが、この会を選んだきっかけは、1995年に南アを含む南部アフリカを訪ねたことです。労働組合の会合に出席したり、金鉱山の現場やソエトを訪ねました。貧しい幼稚園には本がなかったことを覚えています。

Q：TAAAに参加されてみていかがですか。

A：TAAAは気軽に参加できますね。いろいろな年齢職業の人がいて、会社と違う雰囲気です。南アのことを思って真面目に取り組んで

いる人が多いと思いました。

Q：会社員とボランティアについてどう思われますか。

A：これから会社員は、会社の内だけでなく地域社会でどう生きていくかが大切だと思います。スローガンは「国民一人一人が何か一つ、ボランティア活動を！」

(野田千香子記)

矢野明海さん

新聞記事に目をとめて、それまで「何かしなくちゃ…」と焦りに似た気持ちを持って過ごしていた大学生生活を劇的に変化させるべく、この会の活動に飛び込んだ矢野さんは当時、

花も恥じらう大学1年生。ODAやNGOについての講義、とりわけ途上国の教育に関心が向いて行った矢先の当会との遭遇。「目的が絞られていて活動の内容が判りやすかった」と述懐する彼女は阪神大震災時の被災外国人学校支援プロジェクトで幹事を務め、全国から予想以上の義援金を集めた実績の持ち主。優しい外見、柔らかな物腰。お嫁さんにしたい好感度ランク上位。卒業後、通信関係の会社に進み毎日モーレツに忙しいcareer ladyに。最近結婚が決まり、少々気落ちしているのは私(筆者)だけだろうか。

(浅見克則記)

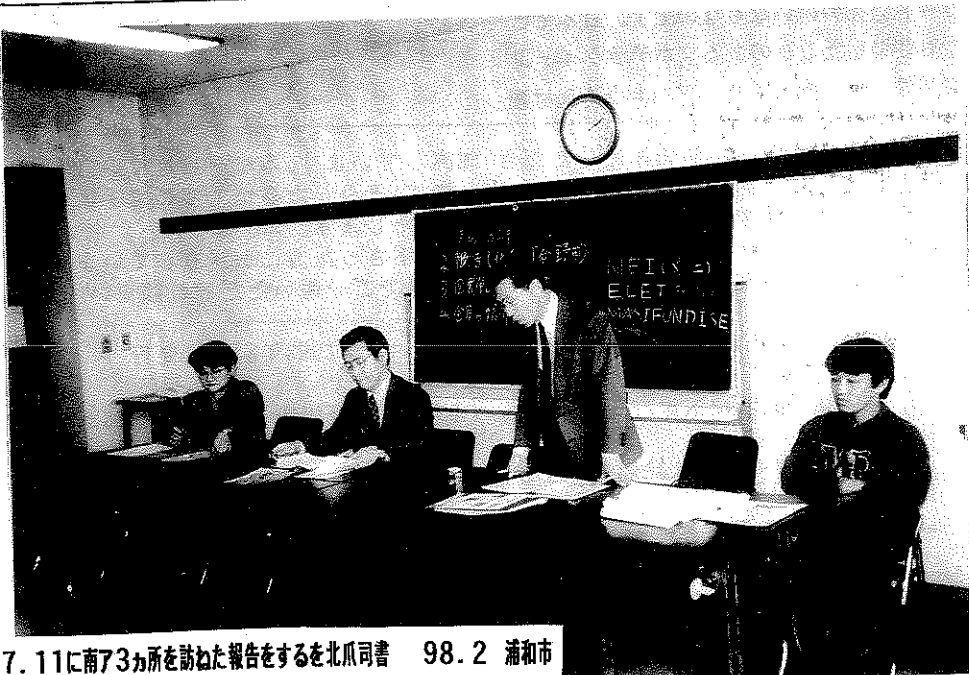
### ルイボス・ティー販売のお知らせ

◆「ルイボス・ティー」は南アフリカ共和国のゲーブタウン近くの山脈一体にしか栽培されていない健康茶です。化学肥料や農薬を使わず自然発酵により作られています。最近日本でも話題になってきたこのお茶は、健康や美容に効果があります。ノンカフェインでタンニンが少量(紅茶などの1/10以下)なため、安心して飲めます。ミネラルを多く含む栄養価の高いお茶です。老化を促進する活性酸素を排除する作用があります。紅茶やコーヒーがわりに楽しめます。1リットルのお湯に対して1パックが標準です。

「ルイボス・ティー」1箱80パック入り 1箱2000円(送料、税込み)  
ご注文は5箱以上をお願いいたします。

荷物を受け取られたら、会宛に振込んでください。振替用紙に「ルイボス・ティー代」と明記して下さい。

ルイボス・ティーは、アンリ・ヘルシーのご好意で一箱2000円のうち600円が会への寄付となります。



報告会 97.11に南ア3カ所を訪ねた報告をするを北爪司書 98.2 浦和市

## 平林薫さんの南アフリカ (2)

前号に続いて南ア在住の平林薫さんのいきいきした生活情報をお伝えします。

### エンターテイメント

#### <音楽>

私は音楽、特に伝統的なアフリカンミュージックやジャズが大好きなので、こちらではよくライブに足を運びます。

国際的にも有名なブラックマンパーゾやヒューマサケラなどのライブが何と30ランド(約850円)で見られるのです。また国際的には知名度がなくても素晴らしいミュージシャンが多く、その才能とセンスを目の当たりにし、やはりここが本場(ルーツ)なのだと感じます。しかし彼らのほとんどは、今だにタウンシップの小さな家に住み、その日暮しをしています。それから比べるととてもアーティストとは呼べない若い歌手(とも呼べない!)がえらそうな顔をしている日本はずいぶん幸せな国というか何か変なのではないかしらと思ってしまいます。

こちらはレコード会社とミュージシャンの関係にもアパルトヘイトが影響を及ぼしており、長年音楽活動を続けてきた人達はほとんどといっていいほど搾取されてきました。何といっても契約等に必要読み書きが不自由な人達が多いわけですから、はっきりいってレコード会社のいいなりなのです。日本でCMにも登場したことのあるマホテラクイーンズの男性リードボーカル、マハトウニ氏は現

在一文無しで娘さんに養ってもらっている状態です。企業勤めの人と違って年金ももらえず、年をとってきて活動もだんだんつらくなり、不安の日々を送っているのです。

またアパルトヘイト時代には闘う吟遊詩人として活動を続けてきたムズワキムプリ氏は犯罪(銀行強盗)に関わったとして現在拘留中です。ズルーの彼はクワズルーナタール州での政治抗争をやめるようにというメッセージの新曲を出したばかりだったのです。彼のメッセージは本当に力強く人々の心に響いていただけにこの逮捕はショックでした。まだ裁判が行なわれていないので何が起きたのか真実はわかっていません。

今、若いアーティストたちは先輩たちの失敗を繰り返さないように契約書はとてもしびアに行なっているようです。ただ少しさみしいのは彼らはお金儲けが第一で本当のミュージシャン魂がかけてきてしまっているように感じられることです。つまりハングリーな中から湧いてくる悲しみや怒り、喜びや夢を表現するパワーが感じられなくなってきているのです。だからどの若いミュージシャンの音楽を聞いてもみんな同じようなのです。特にアフリカンアメリカンの音楽の真似みたいなものが多く、格好つけたミュージックビデオもさかんに作られています。これは世界的な傾向なのかもしれませんが、私はシンプルで力強く美しい本当の南アフリカの音楽がいつまでも受け継がれていくことを心から願っています。

◆多くの方から英語の本をいただき、感謝しています。本は一旦近くの倉庫へ保管して月に一回位荷を解き、梱包し直します。そうした事情ですので手紙や寄付金などは別便でお送り下さるようお願いいたします。

◆ニュースレターは会にこれまで協力して下さった方にお送りしていますが、ご不要の方は恐縮ですが電話、Fax、ハガキなどでご一報いただければ幸いです。

自由南アフリカの声	第18号	1998年8月5日発行
新所	アジア・アフリカと共に歩む会	
〒338-0012	埼玉県与野市大戸5-17-1	野田方 Tel 048-832-8271
		Fax 048-832-3607
郵便番号:	「アジア・アフリカと共に歩む会」00100-4-608515 (寄付金受付)	
	新所	野田千香子 編集 久我祐子